

<全体分析>

試験時間 120 分

<p><b>解答形式</b> 記述式</p> <p><b>分量・難易 (前年比較)</b> 分量 (減少・やや減少・変化なし・<b>やや増加</b>・増加) 難易 (易化・やや易化・<b>変化なし</b>・やや難化・難化)</p> <p><b>出題の特徴</b> 読解総合：内容説明, 英文和訳 英作文：和文英訳, 自由英作文 (手紙文)</p> <p><b>その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)</b> 読解問題においては, 昨年度まで数年間出題されていた空所補充問題が出題されなくなった。和訳問題の出題は大問 I のみとなり, 大問 II は内容説明問題 2 題のみの出題となった。自由英作文は再び大問 IV として独立し, 留学に伴う奨学金の問い合わせの手紙文を書かせる問題となっている。大問 III は前年度と同じくオーソドックスな和文英訳問題。</p>
---

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	「動物の高度な認知能力」 (563words)	<p>(1) 下線部直後の 3 文が該当箇所となる。compensate for; refraction; trajectory などが少々難しい語彙。</p> <p>(2) 下線部に続く文中から, mini と言われる所以 (「脳」と呼ぶには脊椎動物と比べるとニューロンの数が少ないという点), そしてそれでも brain と呼ばれる所以 (昆虫の中ではニューロンは高密度である; 高度な認知や学習を可能にしている) を指摘する。どこまでを解答に盛り込むかの判断は難しい。</p> <p>(3) 第 1 文の much smaller は哺乳動物との比較。comparable も「哺乳動物に相当する」の意味。their performance の their は cognitive processes を指す点にも注意。第 2 文の trace A to B は「A を B に帰着させる」の意味で若干難しい。they は similarities を指す。第 3 文は特に難しいところはなく, 確実に得点したい。</p> <p>出典: Ludwig Huber, <i>The Smart Set</i></p>	標準

II	読解総合	「初期インディアンの歴史」 (628 words)	<p>(1) 下線部(a)「沿岸考古学は生活のごく断片的な記録しか発掘していない」と述べられている理由を、設問文に指示されている通り、第2パラグラフと第4パラグラフの内容からまとめる。中心となる内容はインディアンの生活が営まれていた沿岸部が現在では海水面が上昇したために水没してしまっているということである。これに加えて、なぜインディアンが沿岸部で生活をするようになったのかという点を付け加えて説明すればよいだろう。</p> <p>(2) 下線部(b)の主語である <b>What made for ... relatively mild climate</b> が直接的には理由に該当するので、まずこの部分をまとめることになる。そのうえで、採集狩猟に向けた環境であったことが、なぜ <b>bad archaeology</b> をもたらすことになるのかに対しては説明が必要である。移住が繰り返されたために十分な考古学的証拠が残されなかったということを第3パラグラフから読み取らなければならない。なお、下線部(b)で用いられている <b>make for A</b> は「Aを生み出す」という意味。</p> <p>出典 : David Treuer, <i>The Heartbeat of Wounded Knee: Native America from 1890 to the Present</i></p>	やや難
----	------	------------------------------	---	-----

III	英作文	「モノがないからこそ大切にす る」	京都大学の英作文の問題としては比較の出題頻度の高い音楽に関連した和文英訳問題。第1文の「やっとの思いで手に入れた」「擦り切れるまで」、第3文の「山積み」、最終文の「モノがないからこそ大切にす」などは、日本文の意味をしっかりと理解した上での英訳が求められる。「ネットで買ったきり一度も聴いていないCDやダウンロード作品」の部分は、しっかりと構造を決めた上での英訳が必要。例年通り、京都大学らしい出題となっている。	標準
IV	英作文	「奨学金につい ての問い合わせ」	京都大学では初めての手紙の本文を書く問題。「丁寧な文章を」という指示がついているのも、京都大学では初めての出題。用いる表現の丁寧さはもちろん、手紙本文の構成の丁寧さも求められていると考えるべきで、そもそも奨学金について何を問い合わせるべきかということ自体、思いつくのに苦戦した受験生もいるのではないだろうか。なお、日本では「給付型奨学金」「貸与型奨学金」という言葉があるが、scholarship自体、基本的に給付型で、返済の必要はないものを言う。	やや難

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

読解問題では内容説明問題の出題が多くなった。どこまでを解答に盛り込むか、そして該当箇所をどこまで正確に読むことができたかが問われる。該当箇所がほぼパラグラフ全体に及ぶ問もあるが、単なる要約問題ではなく、問題文の要件に合致する記述を抜き出す必要がある。英文のテイスト自体は、2題とも基本的に従来の英文読解問題のそれと大きくは変わっていない。従来の精読問題の勉強法を大きく変える必要はなく、過去問に目を通すことにも十分意義はある。精読に加えて和訳以外の記述、特に「まとめる」演習を今後とも心がけたい。

英作文では大問Ⅲは昨年に続いての英訳問題。過去問の英訳問題の練習を含め、各人の実力に合わせた演習を積む必要がある。独立問題となった自由英作文問題は、手紙の形式で、すでに多くの大学で出題されているものである。自分に書ける範囲の平易な英語で確実に書くことを心がけたい。また、「丁寧な文章」といった、状況に応じた適切な表現の選択も、今後視野に入れて演習する必要がある。他大学の過去問などを参照し、積極的に添削指導を受けることが望ましい。自由英作文はさらに形式が変わる可能性も十分にあるので、形式にこだわらず、さまざまな形式の問題に触れ、実際に答案を作る演習をすることをすすめる。